

No.28

がけはし

発行/社会福祉法人
北海道ハピニス
〒005-0849
札幌市南区石山933番地3
☎(011)591-5211
☎(011)592-5063
ホームページアドレス/
<http://hapisu.com>
発行日/2012.4.1
発行人/理事長 太田 三夫
編集/広報委員会



和幸園デイサービスセンターご利用者の日ごろのようす



生活介護事業所グリーンハイムのご利用者が作られた雪だるま



「日中おむつゼロ」を達成して

和幸園施設長 大沼 百合子

特別養護老人ホーム和幸園（定員100名、平均介護度4.3）では平成21年6月から「おむつ外し」の取り組みを開始し、平成23年12月15日「日中おむつゼロ」を達成することができました。

今迄の介護のあり方を見直し、利用者一人ひとりにもっと目を配ったケアをしたい、職員全員が統一した方向性をもった専門性ある介護を学びたいと模索していた時、全国老人福祉施設協議会（老施協）主催の「介護力向上講習会」が東京で年6回開催されていることを知り職員の参加を決めました。

国際医療福祉大学大学院 竹内孝仁先生の講義により重度な高齢者であっても「水分」「運動」「食事」「自然排便」の4つの基本的ケアが適切であれば生活意欲が向上しおむつを外すことができ、QOL（生活の質）が改善することを理論的に学ぶことができました。それを受けトイレでの排泄という普通の暮らしをもう一度経験していただきたいという職員の意識も高まってきました。基本的ケアである4つの委員会とグループケア（全体を8つのグループの小単位に分ける）委員会を発足し、職員の自発的な委員会参加による取り組みが始まりました。オムツ外しが目的ではなく個別ケアを進めていくための手段であることを確認しながら試行錯誤の日々が続きました。

当初は100名中84名がおむつを使用していましたので、30パーセントの使用率削減を目標にしました。

基本的ケアを進めながら「おむつ」を外しトイレやポータブルトイレを利用するようになると、利用者に大きな変化が現れ始めました

不穏、攻撃的で暴言、暴行が恒常的であった方が柔和な表情となり笑顔が多くなっていきました。自発的な言葉をほとんど発されない方が、「おしっこ」と意思表示をされ、尿意がないと思っていた方がトイレに座ると必ず排泄するようになりました。車椅子移動であった方にトイレ誘導時の立位や歩行に力を注いだ結果、歩行器歩行ができるようになった方も増えてきました。多くの方の覚醒水準があがり笑顔が増え、BPSD（認知症疾患における行動心理学的症候）も目に見えて減少していきました。

そんな利用者の変化は職員にとって大きな喜びであり、「おむつゼロ」を目指す原動力になっていきました。

取り組みから2年半の時を経て「おむつゼロを達成」することができましたが、職員からは「ゼロを目指したからこそ見えたものがある」「諦めないで良かった」との声があちこちで聞かれます。

「今ではトイレ誘導は普通のこと、今後は余裕のできた時間を利用者の喜ぶプログラムに組みかえていく」と職員は次に視点を移し考えてくれています。

まだまだ課題は多いのですが、利用者や家族の皆様に助けをいただきながら「和幸園」が安心、安全で居心地の良い場所であるようこれからもチーム力を高めながらも努めて参りたいと思います。

* [全国に特養は6,126施設、「おむつゼロ」達成施設は29施設・・・全国老施協]

「日中おむつゼロ報告会」のお知らせ

日 時 平成24年4月28日（土）13：30～16：00
場 所 アパホテル&リゾート札幌（札幌市南区川沿4条2丁目 TEL 571-3111）
内 容 ◎基調講演「新しい特養とその意義」（国際医療福祉大学大学院 竹内孝仁教授）
◎「おむつ外し」事例報告
◎認知症対応型通所介護「のえるの森」利用者によるハンドベル演奏
対 象 地域住民の皆様、北海道ハピニス利用者ご家族、福祉、介護関係者、その他
定 員 200名
参 加 費 無料

*申し込みは先着順と致します。FAX、TELでお申し込み下さい

FAX・011-591-5231 電 話・011-591-5210

担 当・相談員（吉田、佐藤、杉田）

ご家族様の声 ～オムツが外れ、おしゃれを取り戻した母～

2年前にT市の施設にいたころはほぼ寝たきりに近い状態で、一日中オムツを当てており、数時間おきにパットを1枚ずつ抜くだけの排泄ケアだったと聞いています。

そんな母が和幸園に来て2日目の日に私が面会に行くと、「弘ちゃん私トイレで用を足したのよ!」と涙を流して報告してくれました。‘トイレで用を足す’こんな当たり前のことが当たり前じゃなくなっていた以前の母は、諦めにも似た日々を過ごしていたのでしょうか。今ではみるみる元気になっていき、前向きに人生を生きているようにみえます。

以前からパーマをかけたいと言っていたのですが、長く座っていることができず美容室に行くことができませんでした。それが現在では長い時間座れる体力もつきパーマもかけられるようになりましたし、私が面会に行くたびに様々なブローチを付けており、おしゃれな母に戻っていききました。

行事にも積極的に参加できるようになり、去年は円山動物園にも行き、回転寿司では何千円分も食べてきちゃったと笑顔で話していました。

今では私のほうが母から元気をもらっているんだな、と思います!

オムツが外れることによっていろいろな面が輝きを取り戻しました。1+1が4にも5にもなるということを母と和幸園から教わりました。「日中おむつゼロ」を達成したのは北海道でもまだ2施設だと知り、これからこういった施設がどんどん増えて行ってくれることを望んでいます。そしてそんな先駆けとなった施設で過ごせている母を幸せに思います。本当に感謝しております、ありがとうございます。



札幌医大から施設見学&インタビュー

平成23年11月25日、国際協力機構平成23年度日系研修として、札幌医科大学保健医療学部理学療法学科で研修中の研究生、宮川由美マルシアさんが当法人の施設見学に来られました。マルシアさんはブラジル出身の日系3世なんです。マルシアさんが住んでいる所は「ベレン」という街で、なんと年間の平均気温が28℃だそうです。北海道人には想像がつかないですね!

当日は和幸園・グリーンハイムを見学され、ブラジルよりも進んでいる福祉現場を見て、介護の状況や設備等に驚かれていました。



プチインタビュー

Q1. 研修期間はどのくらい?

平成23年5月から平成24年3月までの予定です。

Q2. 日本に来るのは初めてですか?

2度目です。最初は15歳の時に1ヶ月くらい滞在しました。勉強をしたり、ホームステイをしたり、着付けや茶道、生け花なども体験しました。

Q3. 先生は恐いですか(笑)?

優しいです! (実は一緒に来られたマルシアさんの先生は、当法人の小塚PTのご主人なんです!)

Q4. 将来の目標などはありますか?

もっと色々なことを学んで、ブラジルの日系高齢者の施設で働きたいと思っています。

マルシアさんがこれから大いにご活躍されることを願っています!!



障がい者支援施設グリーンハイム

自主行事 in アリオ東苗穂店

2月24日（金）に利用者様と介護職員が付き添いを行い、アリオショッピングセンターへ行きました。自主行事は1年に1度利用者様が行きたい場所へ担当の介護職員が同行し、外出を楽しんで頂く行事です。1年に1度という事もあり、アリオへ行く車内では「何を買おうかな？」や「お金足りるかな？」など話は絶えず、外出を楽しく楽しみにしている場面が多数ありました。そしてアリオショッピングモールに着くと、利用者様・介護職員はあっという間にお店の中に入って行きました…。(笑)

今後も利用者様の楽しみを出来る限り実現していくためにも支援員・介護職員が協力し合い頑張っていきたいと思ひます。



お雛様の前でパシャリ！！

特別養護老人ホーム和幸園

平成24年2月3日（金）日本全国節分の日です。和幸園には鬼はいない（！？）と信じながらも「鬼は外ーっ、福は内ー！」と今年も元気に開催致しました。

もともと男性の方が少ないせいか、今年も「年男」はいませんでした。そんなときはお茶目な利用者さんが可愛い鬼に変装し場を盛り上げてくれます(笑)

最後にはみなさんで豆を食べて福を呼び寄せるのでした。

今はまだまだとても寒い日が続いていますが、この冊子が発行される頃には春の足音がもうすぐそこまで来ています。今年もみなさんと花見や七夕など、季節を感じる行事をともに楽しみながら素敵な一年にしていきたいなと心から思ひます。



生活介護事業所グリーンハイム

毎年行われている、寒い冬に利用者皆さまにとっても喜ばれる『鍋の日』がやってまいりました。

1月中旬から2月中旬まで順番に月曜日から金曜日まで行い、利用者のお腹を満たしてくれています☆

今回は2/9(木)・2/17(金)に行われた『鍋の日』の楽しい雰囲気写真を収めてみました。美味しいものを食べるとこんなにいい笑顔が見られるんですね。みんなで鍋を囲むことで、楽しく・美味しさ倍増でした!!



よせ鍋・すき焼き両方ともおいしそうだなー!!



うどんも、美味しかったなあ～



美味しいと自然と笑顔がこぼれます



寄せ鍋もすき焼きも、どちらも美味しくいただきましたよー!!

和幸園デイサービスセンター

今年度も和幸園デイサービスセンターでは色々な行事を行いました。まずは、『もちつき』を行いました。『もちつき』は、和デイ初となる行事で2回に分けて行い、利用者の方々にいろいろとご指導して頂きながら、鏡餅とまゆ玉を作る事が出来ました。懐かしい餅つきを利用者の皆さんもできたという事で大喜びでした。今年も行う予定ですので楽しみにして下さい。

そして、新しい年を迎え今年も寶引きと百人一首大会を行いました。皆さん、寶引きでエキサイトし、景品が当たり嬉しそうな顔をしてました。その後、百人一首大会では、職員が読めない札を利用者の方はスラスラと読み、パシッという音を立ててとっていました。

2月3日は豆まきということで、今年の年男・年女の利用者に祓を着ていただき、豆をまいてもらいました。「福は内、鬼は外」と威勢のいい掛け声とともに豆をまき盛り上がっていました。

2月7日～10日かけて、大型バスに乗り雪まつり見学へと行きました。大通り・すすきの会場を見学し、昔とは違った雪まつりを皆さん、堪能されていました。

今年も様々な行事を行い、利用者の皆さんが喜んで頂けるように頑張りますのでよろしくお願い致します！！



和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」

昨年末には「家族会」と「クリスマス会」を開催し、たくさんのご利用者、ご家族様にお越し頂きまして、ありがとうございました。

年が明けてもう三ヶ月。今年も「のえるの森」では、ご利用者様の笑い声が響き渡っております！スタッフ手作りの鼻や目を使って「新春福笑い」にチャレンジしていただきました！目隠しをして完成されたお顔は、どれも個性的でとってもチャーミングではありませんか？「笑い」は身体も心も元気してくれます。今年も皆様の笑顔にたくさん出逢えますように。





訓練室 からひとくち情報

生活不活発病を知っていますか？

生活不活発病とは、体が動かないことでさらに体が動けなくなり、心身の機能が低下する状態のことを言います。体を動かさない状態が長く続くと、体も心も頭の働きも低下します。生活不活発病にならないためのポイントをご紹介しますので、日々の生活で参考になさってください。



わかりづらいことがありましたら、
かかりつけ医などの専門家に相談することをお勧めします。

北海道ハピニスホームページアドレス <http://hapinisu.com>

北海道ハピニス

検索

■ 編集後記 ■

今年は例年以上の大雪に見舞われ、除雪も追いつかない日々が続きました。そんな冬もあと少しで終わり、雪解けが進み暖かい春がやってきます。

北海道ハピニスではこれから春に向けて様々な行事や催し物を開催し、入所・通所の方も含めて楽しんで頂けるように精一杯努力していきます。

広報委員会（砂山・吉田・川口・山本・山田）



社会福祉法人 北海道ハピニス SINCE 1972

やさしさと思いやり

障がい者支援施設 グリンハイム

〒005-0849 札幌市南区石山933番地3
TEL.011-591-5211 FAX.011-592-5063
グリンハイム短期入所事業

生活介護事業所グリンハイム
〒005-0849 札幌市南区石山933番地3
TEL.011-591-5211 FAX.011-592-5063

グリンハイム診療所
TEL.011-591-5211 FAX.011-591-5231

特別養護老人ホーム 和幸園

〒005-0849 札幌市南区石山932番地3
TEL.011-591-5210 FAX.011-591-5231
和幸園短期入所生活介護事業
和幸園デイサービスセンター
〒005-0849 札幌市南区石山932番地3
TEL.011-592-7710 FAX.011-591-5231

地域事業部

〒005-0842 札幌市南区石山2条3丁目14-31
札幌市南区介護予防センター石山・芸術の森
TEL.011-592-7622 FAX.011-592-7775

和幸園指定居宅介護支援事業所
TEL.011-592-7727 FAX.011-592-7775

和幸園ホームヘルプサービス事業所（高齢者）
グリンハイムホームヘルプサービス事業所（障がい者）
TEL.011-592-7827 FAX.011-592-7775

和幸園芸術の森デイサービスセンター「のえるの森」
〒005-0850 札幌市南区石山東7丁目1-55
TEL.011-594-2077 FAX.011-594-2088

● お知らせ / 個人情報保護法について

機関誌に利用者の写真を掲載する場合、本人の同意が必要となりますが、当施設においても本人及び家族の同意を得てから掲載させていただきます。

再生紙を利用しています